

○移送サービスにおける運転について

講師 伊藤正章 氏 (東京ハンディキャブ連絡会事務局長)

移送サービスの安全性の確保

NPOの社会的地位が確立されて来た事で以前にも増してより多くの責任が生じている。
移送サービスとしての自覚が必要(安いタクシーではない)。
安全を確保するのが基礎中の基礎である。

運行表に則っての予定運行が安全の基本(その日の予定者は決まっており、決められたコースと時間を守る)
ボランティア活動でも、責任が生じる。利用者が乗車中の事故については、刑事上民事上の責任がある。

運転者がして良いことと悪いこと。

団体毎にサービスの範囲は、決まっているのでそれに沿った活動をする。
運転が第一の目的、過剰なサービスは禁物。
出来ない事、無理する事はしてはならない。
予定時刻より余り早く行ってはならない(利用者を急がす事は利用者の事故につながる)。
..... 何があるか分からないので時間に余裕を持っていくが家の側で待機。
5分以上早く行かないように
目的地に早く着いても喜ばれない(運転を急ぐ事は交通事故につながる)。

事故防止の為

歩行者、車両運転者が高齢者のときは、より注意する。
特に高齢者の自転車への追い越しは、相手が合図するか停止するかでない限りすべきではない。
高齢運転手は自覚がないままに視力が落ちていたり、反応が遅くなっていたりするので気をつける。

運転について

全てに[急]を避ける。急発進、急ブレーキ、急ハンドル。
スピードは控え目に(すぐに停止できる速度)。但し黄色信号のとき、停止線での安全な停止が困難と判断したときは、加速せず(アクセルを踏み込まず)そのまま進行は可。
一時停止、縦列駐車等の時には、ハザードランプ使用。
カーブでは、スピードを落とす(車椅子では揺れが大きい)。
シートベルトは必ず着用(シートベルトができないときは車椅子と身体を固定できるベルトを使用する)
逆手ハンドル片手ハンドルは応答速度が遅くなるので、教習所で習得した正しいハンドル操作をする。

○運転実技研修

インストラクター 林 章一氏(ひいらぎ移送サービス)

キャラバン使用。八分目まで水が入った紙コップを持ってこぼさないような運転!
S字、クランク、縦列駐車、鋭角の各コースで実施(途中ロールプレイング有り)。採点表をいただく。
車椅子をリフトで上下するときは声かけとともに必ず車椅子をつかんでいること。
リフトを途中まで上げた状態で車椅子の固定・解除をしてはならない。
(車椅子から手が離れたり、操作のときに揺れたり傾いたりして非常に危険)
シートベルトは必ずアームレストの下を通すこと。
上からだ隙間ができ、ぶつかったショックで内臓破裂してしまうとのこと。

感想

まず第一に、最低参加費分の収穫は得てこよとの思いで参加しました。
各講師の講義はそれぞれ色々な切り口でのものでしたが、結論は安全確実な送迎をするにはかくあるべしの一点につきます。[人命を預かっている]事を念頭に置き、技術レベルの向上のため警察署の安全運転講習またいざと言う時の為。

消防署の救急救命講習等に積極的に参加し、安全に配慮した運転を心掛けます。
楽しく気持ち良い送迎も大切ですが、まずは、安全確実な運転を、です。
この事で、参加費以上の収穫を得ることが出来ます。

★今回は島村信夫・井上美都子が参加しました。追って他の運転協力者にも受けていただく予定です。